

花のまちづくり情報 Vol.1

花はな通信



ガーデニングブームもあり、今は花・はな・ハナでどこでも花がとりあげられています。

でも恵庭の場合は、ブームの前から花が広がっていました。当然花が好き、庭づくりが楽しみという個人の方はどこのまちでも大勢いらっしゃいますが、恵庭は他のまちに先がけて隣近所の人たちと楽しみながら、みんなで花を飾っていたことが大きな賞をいただいたりテレビや雑誌等のマスコミにとりあげられたのです。

このことは意外と市民が知らなくて、市外の人がよく知っていることもありますので、恵庭の花のまちづくり情報をみな

育ててみようよ。
みんなで花の
まちづくりを！



さんに知っていただきたく、「花・はな通信」を発刊することになりました。当面は年2回ぐらいの発刊を予定していますが、内容や発刊回数も増やし充実していきたいと思っています。

ところで「花のまちづくり推進会議」という団体をご存じでしょうか？たぶん多くの方が知らないと思います。簡単に紹介しますと、行政と市民がお互いに知恵を出しあってつくられた「花のまちづくりプラン」を行政とのパートナーシップ(対等な関係)のもとに推進しようという組織です。

だれもが、花や緑に囲まれた住みよい美しい生活環境を望んでおり、一人ひとりの力は小さくとも一つに集まれば大きな力になります。道路や公園を作ったり管理するのは確かに行政の仕事ですが、美しい街並みやうるおいのある生活環境については行政が画一的に行うより、私たち自ら進めていくほうがよい分野もあります。特に花のまちづくりについては一人ひとりが真剣に考え、力を合わせることで花や緑に囲まれた暮らしをつくる第一歩になります。それも行政と協働で推進していたほうがより大きな第一歩となります。その市民側の団体が「花のまちづくり推進会議」です。

ちょっと堅い話になってしまいましたが、花のまちづくりを「無理なく、楽しく、元気よく」みんなで育てていきましょう。

(恵庭花のまちづくり推進会議 会長 只野覚)





行政と私たち「市民」とで策定

「花のまちづくりプラン」が策定されたのは平成10年3月ですが、平成8年、9年の2ヵ年にわたり、懇話会形式で毎月1回のペースで論議を重ねました。具体的な策定作業にたずさわった特定の人たちだけでなく、アンケート調査を実施するなどいろいろな形で意見を寄せてくれた不特定多数の方々の意見を集約したもので、行政と私たち「市民」との共同作業で策定しました。

行政が示す計画はこれまではどちらかというと一方的な実施計画になりがちでしたが、プランの主演は「私たち」市民一人ひとりで、決して強制されるものでなく、自発的に焦らず急がず、地域が一体となるよう進めるプランです。細かな取り組みや進め方やお金のことなど課題もたくさんありますが、行政と私たち「市民」との双方が話し合いながら花のまちづくりを決めています。

またこのプランでは、目標達成するための計画期間を定めていませんので、実践の過程で常に点検し、見直していかなければなりません。そのため、このプランは5年を経過した時点で見直すことになっています。

花のまちづくり プランって どんなプラン？

パートⅠ

「花のまちづくり」の 基本的な考え方

このプランにおける花のまちづくりは、ただ単に恵庭のまちに花を増やし、特定の場所を美しく飾り立てればいい、というものではありません。自分たちの身近な自然環境や歴史・文化を大切にして花や緑を育み、快適で質の高い生活と美しい街並みや風景をみんなで共有し、それをまちの発展にまでつなげていこうというのが基本的な考え方です。

また、目標像は

「花もよし、風もよし、人もよし。ここが恵庭」
を掲げています。

期待される効果

花が本来持っている力や花を媒体にしていろいろな広がりや効果があります。

例えば

- 地域のコミュニケーションづくり
- 生命の大切さを知る
- 美しい環境を大切にする心が生れる
- まちのイメージアップにつながる
- 関連産業が育つ

など多くの波及効果がまちづくりにつながっていきます。



第11回 恵庭・花とくらし展

平成12年
6月24日(土)・25日(日)

恵庭市は今年で市制施行30周年を迎え花とくらし展もいつも以上に盛りだくさんの内容を企画しています

(詳しくは5月号・6月号の広報で)
会場は市民会館ほか各地区で開催する予定ですので楽しみに!

どのように進めていくのか

目標像で分かるように、私たちのめざす花のまちづくりは花も風も人も入っています。けて花だけではなく。自らの好みにしたがって、いろいろな花を楽しめばいいのですが、それは周辺と環境が調和したとき、もっとすばらしいものになります。

つまり花だけでなく芝生や樹木の緑や周辺の建物などいろいろな組み合わせなど、小さな環境との調和への配慮がやがて隣近所に広がり、まち全体の総合的な環境まで拡大したとき、初めて“恵庭らしさ”が出てきます。時間がかかるかもしれませんが、それぞれの主体性にもとづいて、あるときは単独で、またあるときはパートナーシップ(対等な関係)のもとで協力しあい、試行錯誤を積み重ねながら無理なく楽しみながら進めています。

行政と私たち「市民」がこのプランを協働して推進する際、市民側の組織が必要です。それが「花のまちづくり推進会議」です。

設立は平成10年11月でメンバーは花のまちづくり関係組織から選出された15名です。

組織の概念図としては次のようになります。

花のまちづくり推進会議

- 目的** ○花のまちづくりを推進し、市民の豊かな文化と生活向上発展に寄与することを目的とする。
- 事業** ○花のまちづくりの啓発普及○花のまちづくりのネットワークの形成○恵庭・花とくらし展等花に関するイベントの企画開催○花のまちづくりの研修及び指導者の育成○その他目的達成のために必要な事業

花のまちづくり推進会議



花のまちづくり関連組織

- 花いっぱい文化協会○フラワーマスター○学校関係○町内会関係○文化協会○商店街関係○商工会議所○農協○花苗生産者○青年会議所○企業関係○まちづくり組織etc

●花のまちづくりの主な経緯

- 1961年(昭和36) ○花いっぱい文化協会設立
- 1974年(昭和49) ○花いっぱい文化協会が住民運動実践功労団体に石狩支庁長表彰
- 1983年(昭和58) ○若草小学校花壇が全国花いっぱいコンクールで農林水産大臣賞受賞
- 1984年(昭和59) ○恵庭市花苗生産組合設立
- 1987年(昭和62) ○柏陽中学校花壇が全国花いっぱいコンクールで法務大臣賞受賞
- 1990年(平成2) ○市制施行20周年の行事として第1回恵庭・花とくらし展開催(以後毎年開催)
- 花いっぱい文化協会がみどりの環境づくり実践活動で知事表彰
- 1991年(平成3) ○ニュージーランドのクライストチャーチを視察(市民団体13名、帰国後スライド等より市内各所にて啓発)
- 第1回恵み野フラワーガーデンコンテスト実施(以後毎年実施)
- 1992年(平成4) ○恵み野中学校花壇が全国花いっぱいコンクールで運輸大臣表彰
- 花いっぱい文化協会が「みどりの愛護」功労者で建設大臣表彰
- 1994年(平成6) ○サッポロビール北海道工場企業庭園が全国花のまちづくりコンクールの企業部門で農林水産大臣賞受賞
- 1995年(平成7) ○花いっぱい文化協会が緑化推進功労者として内閣総理大臣表彰
- 恵み野花づくり愛好会が全国花のまちづくりコンクールの団体部門で建設大臣賞受賞
- 1996年(平成8) ○恵み野西商店会が北海道花と緑のまちづくり賞、知事賞受賞
- 1997年(平成9) ○漁町商店街振興組合「遊ingロード一番街」が北海道花と緑のまちづくり賞奨励賞受賞
- 1998年(平成10) ○月刊雑誌ミセス7月号に恵み野の特集掲載される。
- 漁町商店街振興組合「遊ingロード一番街」が北海道花と緑のまちづくり賞知事賞受賞
- 漁町商店街振興組合「遊ingロード一番街」が全国花のまちづくりコンクールの企業部門で建設省都市局長賞受賞

- 行政**
- 市民や団体が行う花のまちづくりの支援
 - 公共施設等に関する事業

市役所内推進体制

「今回は花のまちづくりプランの概要と推進についてのお話でしたが、次回は、行動指針の具体的な内容や取り組みについてお話しします。」

花のまちづくり講演会 & 交流会

花のまちづくり講演会 当日、フリー参加(無料)

『花と人の輪を広げよう』

- 日時: 3月11日(土) 13:30~
- 場所: 恵庭RBパーク(視聴覚室)

【交流会】

講演会終了後、須磨さんを囲んで楽しいひと時を過ごしませんか。
(こちらは事前申込みです・先着50名)
申込先: 恵庭市花と緑の課(3/7まで)
参加費300円(ハーブティ・ビザ・軽食付)



「趣味の園芸」キャスター
須磨 佳津江氏

注目されています

花のまち恵庭

「テレビに恵庭のことが放映されていたよ!」と遠くに住む親戚から電話があったり、「〇〇誌に恵庭のガーデニングの素晴らしいお宅が紹介されているよ!」等、4・5年前はめずらしかった話題は今ではもう当たり前のように聞こえてきます。

市の花と緑の課の話では、昨年の花に関する行政視察は6月から10月の5ヶ月間で60件、人数にすると約1,600人の方が訪れており、「花で飾られている綺麗なまち」と注目されている一方、市民がそれぞれ花で飾って楽しんでいることに高い評価をいただいているとのこと。また、恵庭出身者が、ふるさと自慢で今住んでいるまちの人たちにPRしているようで、その市町村からの視察依頼があったり、商店街でも視察やお花のきれいな住宅街を見に来た際に、食事などをしていく人が増えているということをお聞きました。

花が恵庭のまちのイメージアップに役立っているいろいろな効果があるようです。お年寄りの方の生きがいになったり、また、お花で飾っている庭を見て回ることがいい運動になったり、その家の人と友達になったりして確かにいい効果となっているようです。

恵庭市(花と緑の課)で対応した行政視察一覧表

6月(4団体・147人)

東神楽町住民グループ、J A岩見沢女性部、北檜山町フラワ一部会、他1団体

7月(26団体・699人)

札幌石山中学校PTA、熊石町レディースネットワーク、知内商工会婦人部、登別市緑化推進協議会、余市町フラワーマスター連絡会、愛別町ヒマワリ学級、帯広市みどり花のセンター、広尾町町内会連合会、石狩管内農村女性地域グループ、南幌町建築士会、白石区北都町町内会、小樽花卉園芸組合、中頓別町住民グループ、豊浦町婦人会、上川町花いっぱい運動実行委員会、J A栗沢町女性部、稚内フラワーマスター、白糠町婦人団体、平取町婦人団体、他7団体

8月(10団体・214人)

新得町花いっぱい運動推進委員会、仁木町コミュニティ推進協議会、空知農村女性部、羅臼町町内会連合会、石狩市緑化推進協議会、登別市市民憲章推進協議会、他4団体

9月(14団体・517人)

当麻町婦人部、矢田庄内川をきれいにする会、小樽調停協会、芽室町消費者協会、日高町成人大学生涯研修、札幌市緑の愛護員、白老町花と緑の会、白老町高齢者大学、八雲町衛生協会、他5団体

10月(6団体・52人)

長野県中野市・山ノ内町、知内町新生活運動推進協議会、黒松内町まちづくり推進委員会、他3団体

11月以降(3団体・19人)

三重県まちづくり推進課、他2団体

注目されることでちょっと無理してしまうことがありますが、やはりうれしいことですね。でも長続きするためには、無理なく楽しく花を生活の中にとり入れていきましょう。

として保管しましょう。

耳より情報

春のタネまきはどうか?

1、春まきの一年草のタネまきは、発芽に温度を必要とするため、彼岸から五月中旬頃までがまきどきです。(この中に入らない種もたくさんあるので注意して下さい。)

2、用土は清潔で、通気性、保水性、排水性のよい土が適しています。タネまき用に市販されているピートバン(ピートモスを圧縮加工したもので吸水するとふくらんでタネまきに適した状態になる)を使用すると便利です。

3、トレーにピートバンを入れ、たっぷり水をかけ、ふやかした後にはタネをまき軽く押さえます。

4、発芽するまでこまめに霧吹きで水をやり、涼しい場所に置き、乾かないように管理します。(温度は20度前後にし、カビが生えてもじつと我慢しましょう。葉が大きくなると自然にカビは消えます。)

5、発芽したら加湿にならないようにします。後は窓辺等に移し徐々に太陽にあてて丈夫な苗にしましょう。

6、本芽が4〜6枚出るまで育てたら、一株ずついねいに分けて移植しましょう。

※タネは、インパチェンス、サルビア、クリサンセムム、ペチュニア等が育てやすいので挑戦してみてください。

